

平成22年度 シラバス	学年・期間・区分	4年次・後期・B群	
	対象学科・専攻	機械・電気電子・電子制御・情報・土木工学科	
哲学 (Philosophy)	担当教員	中村 隆文 (Nakamura, Takafumi)	
	教員室	一般科棟3階 (tel.42-9043)	
	E-Mail	nakamura@kagoshima-ct.ac.jp	
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義 / 履修単位[講義] / 2単位		
週あたりの学習時間と回数	〔授業(100分) + 自学自習(200分)〕×18回		
〔本科目の目標〕 哲学・倫理学上の問題を、二項対立の図式化のもとで考察する。それによって、現代の哲学・倫理学では何が問われているのかを理解し、議論を整理しながら各種問題の本質を捉えることが本科目の目標である。			
〔本科目の位置付け〕 2年次の「倫理」の延長として位置し、さまざまな学説の理解のもとで問題を考察する。5年次の人文社会科学の諸教科、「技術倫理総論」、および専攻科2年の「技術倫理」と関連する教科である。			
〔学習上の留意点〕 単になる暗記に終わることなく、自分自身で問題を考え抜く態度を身につけること。 教科書や適宜配布するプリントを参考に毎回復習し、200分以上の自学自習を行うこと。			
〔授業の内容〕			
授 業 項 目		時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
1. 道徳はほんとうにあるのか & 2. 道徳の源泉はどこにあるのか		2	ギュゲスの指輪の例が示す意義を理解できること、理性説や感情説の議論を正しく理解すること。
3. 道徳的知の獲得にとって道徳的生活は前提条件となるか		4	主知主義と主意主義との区別を正しく理解すること。
4. 道徳は効率をめざすべきか、公正をめざすべきか & 5. 道徳規範は世知と合致するのか		2	帰結主義vs.義務論の議論構造を正しく把握すること。
6. 自由は本当にあるのか		2	カントの自由意志論を理解すること。
7. 自由と平等は両立するのか		2	ロールズの正義論を理解すること。
8. 自分の身体を自由にできるのか		2	ロックなどの自己所有権の概念の問題点を理解すること。
後期中間試験		2	1～8までの理解度を確認する。
9. 人間は自由であることに耐えられるか & 10. 無条件な寛容はありうるのか		2	自由、寛容の限界について理解を深めること。
11. 法と道徳は一致すべきか		2	ソクラテスの死などを通じ、悪法問題の枠組を理解すること。
12. 営利行為は悪か		2	営利行為を称賛・批難するさまざまな議論を理解すること。
13. 個人の責任か、それとも団体の責任か		2	日本社会における責任概念の長所・短所を理解すること。
14. 戦争はどこまで悪か		2	ホッブズの自然法論、国際法の必要性を理解すること。
15. 種の保存か、それとも人間の暮らしか		2	西洋における人間中心主義の功罪を理解すること。
16. 男性と女性の差異は差別か		2	フェミニズムについて理解を深めること。
17. 生命はどのような場合にも尊重されるべきか		2	バイオエシックスにおける事例について正しく理解すること。
18. 道徳的行為は報われるのか & 19. 人生に究極の意義はあるのか		2	ニーチェ思想、ニヒリズムの概念について理解すること。
20. 信仰は市民生活を超えられるのか & 21. 快楽を求めることは悪か		2	宗教の功罪を理解し、健全な市民社会がどのようなものであるのかについて理解すること。
後期期末試験とレポート提出 試験答案の返却・解説			9～20までの理解度を確認する。 各試験において誤った部分の訂正・理解をする。
〔教科書〕なし			
〔参考書・補助教材〕 『モラル・アポリア 道徳のディレンマ』(佐藤康邦、溝口宏平編、ナカニシヤ出版、2001) 必要な資料文献は適宜プリントして配布する。			
〔成績評価の基準〕 中間試験および期末試験成績(80%)、レポート(20%) 授業態度(上限20%)			
〔本科(準学士課程)の学習教育目標との関連〕 1-a, 4-a			
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 1-1, 4-1			
〔JABEEとの関連〕 (a), (b)			